

	主な御意見
草津・たび丸Kitchenレシピ	<ul style="list-style-type: none"> ・地中海式食やDASH食を推奨することは適切であると思うが、同時に肉類の摂取を控えることによるたんぱく質不足も心配なところであるから、栄養バランスのとれた食事を摂ることも、掲載内容に盛り込んで欲しい。 ・「これを食べれば認知症にならない」「認知症が進行しない」といった情報の伝わり方にならないようにする必要があると考える。 ・レシピの最後に「ひと口30回以上ゆっくりよく噛んで食べましょう」「食べるために歯を大切にしましょう。そのためには、歯みがきと歯科検診を忘れないようにしましょう。」といった内容を掲載してはどうか。 ・レシピとなるとハードルが高い人もいると思うので、「この食材を使いましょう」や「〇〇〇の摂りすぎには注意しましょう」など、取り組みやすい内容もあってよいのではないか。 ・認知症の予防等の取組を第3期アクション・プランに組み込まれ、それに対する具体的な取組に繋がり、良いと思う。また、認知症の人も家族も安心して生活できるまちを目指した施策は幅広く、他課や他部局の取組と連動されることは効果的だと思う。 ・「レシピ」と同様に、使用する「食材」がなぜ良いのかというエビデンスも提示した方がさらに興味を持たれ、「この食材を入れた食事を食べよう」と心がけると思う。 ・地中海式食もDASH食も認知症予防に資する食事ということだが、なじみのない物で取り組むのは難しそうに思われる。塩分や油脂控え目な身近な和食のレシピを掲載するとか、料理教室を開催する等の工夫があれば良いのではと思う。 ・スーパーなどの商品の横にレシピを置くと効果的だと思う。 ・こんなに手間のかかる料理を作る人がいるのだろうか。食べ物なら何でも売っている時代、今や作るから買う時代で実態に合っていないように思う。イメージ案の内容は疑問。
認知症ヘルプカード	<ul style="list-style-type: none"> ・薬局、スーパー、JR、バス、タクシーなどの交通機関の関係者への広報活動に期待する。 ・氏名や住所などの本人の基本情報とともに、何を掲載するかを検討する必要があると思う。他地域の事例を参考にしつつも、草津市の実状にあった内容にして欲しい。 ・ヘルプカードに住所を記載するのは危険なのではないか。同居人不在の時間帯がわかって犯罪に使われてしまうリスクも考えなくてはならないようにも思う。電話番号と地域包括支援センターの連絡先くらいにしておいたほうが良いのではないか。(住所の記載は任意) ・安心して外出できるための環境づくりについても大変重要な視点であり、具体的なより取組だと思う。作成した認知症ヘルプカードが安心した外出につながるようモニタリングしていくことも重要だと思う。 ・とてもいい案だと思うが、当事者やその家族の受け止め・受け入れ方はさまざまなのが現状だと思う。民生委員や町内会などの協力も必要と考える。 ・軽度の認知症の方は特に「自分は大丈夫」と思われているので、いかにしてヘルプカードを持たせるか、荷物にしるばせるか、そして、持っていることを覚えていて、提示できるか、そのあたりに不安が残る。 ・ヘルプカードを所持(掲示)することでかえって不利益を被ることがないよう、予想されるリスクへの対応に向けての施策が大切だと思う。 ・駅員さん、スーパーの店員さんなど、町で働く人に知ってもらうことが大切だと思う。 ・自ら他人に見せて助けを求めるのは、大変な勇気が必要であり、ねらいは良いが、どの程度使ってもらえるのか。